

Et Voilà!

2019年1月13日号 (第4号)

【年頭のあいさつ】

挨拶が遅くなりましたが、みなさん、新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

昨年後半から、移動支援に関し、利用者さんひとりで行き来できるところはやっていただくなどして、16:30以降の他事業所への移動支援を減らす方向で、利用者の皆様をお願いしてまいりました。

納得いただけているのかどうかはわかりませんが、少しずつご本人だけで行き来したり、他の事業所に移行する事例が増えてきました。

ある利用者さんについては、送迎バスを降りてからおぐのあかりまで、まったく問題なく来ています。いまではヘルパーは陰で見守っているだけです。以前は、ヘルパーを見かけると、そちらが気になるのか、何度か立ち止まって、ヘルパーの方向を見ていたのですが、ヘルパーの姿が見えな

【施設コンフリクト】

昨年末、港区が南青山に建設予定の児童相談所について住民説明会を開催したところ、「南青山のブランドイメージが落ちる」、「土地の価値が落ちる」、「入所した子供が、周りの子どもと自分を比べてつらい気持ちになるのでは」などというような意味の建設反対意見が出て、紛糾したということが大きくニュースに取り上げられました。

もちろん、虐待などから守られるべき子どもたちのためにも賛成という人も少なくないようです。

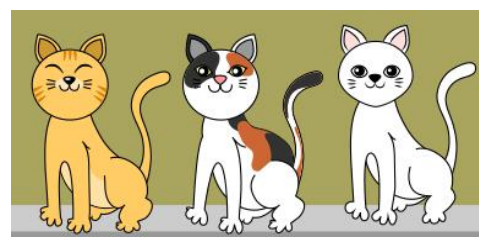
反対する人からすれば、児童相談所は必要だと思いが他所につくってくれということでしょう。いわゆるNIMBY(Not in my backyard)ということでしょう。

いと、ずんずんと歩いておぐのあかりまで行っています。近いうちに迎えに行くのはやめるつもりです。

できることは自分だけでやるというのは本人にも自信になるようです。幼い子が、親に手を出されるのを嫌がって自分でやりたがることがあります。時間がかかってもひとりできると、とてもうれしそうです。それが自信や自己肯定感につながるものです。それと似ているように思います。

できるところは自分でやってもらい、また更にできそうなところを見つけ、できるようになるのを手伝ったり、苦手なところを補得るようになるといいですね。

また、人手不足の降り、本当に必要な介助に人手を回せるようにしたいと考えています。



より密接に児童虐待などに対応することをめざして、児童相談所を都から区市町村に移管することが進められています。児童相談所の建設については、荒川区を含め、他の地域では目立った反対はないようですが、清掃工場や火葬場などのみならず、保育園や障がい者施設（グループホームを含む）の建設には、周辺住民の方たちから反対が起きることが時々あります。

一昨年開設20周年を迎えた荒川区立障害者福祉会館（アクロスあらかわ）でも反対運動がありました。特に精神・知的障害の人たちへの偏見が大きかったようです。

このような施設の建設反対の理由は、港区の児

童相談所のように、土地の価値が下がるとか、知的・精神障がいの人は何をするかわからないから怖いなど、根拠のない偏見から来ているものが多く、建設を進めたい関係者の人たちには、とてもやるせないものです。

そんなとき障がい者福祉関係の私たちは、障がいのある人たちのことを理解していただこうと思ってシンポジウムを開いたり、イベントを開催したりすることでしょう。しかし、反対している人たちは、理由は後付けで、おそらく感情的なもの（あるいは偏見）から反対しているわけで、そんな時に、理解してくれといくら言っても、なかなか理解していただけないだろうと思います。非難されても、よそ者が勝手なことを言っていると受けとって、かえってかたくなになってしまうかもしれません。

では、建設に反対の声がある中、どのようにして必要な施設をつくっていくのか。

このニュースが報道される前、「施設コンフリクト（対立から合意形成へのマネジメント）」（野村恭代著、幻冬舎ルネッサンス新書）を読みました。

著者本人が、精神障がい者のソーシャルワーカーをしているときに、理解してくれていると思いついていた地域の人たちから反対運動を受けたこともあったそうです。この本には、各地で起きる施設建設反対に対して、どのように対応するのか各地の事例なども挙げてあり、とても参考になりました。

事例の一つとして登場する市役所職員の例にとっても感銘を受けました。その方は、お互い感情的

になっている施設側の法人の人たちと住民の人たちが合うのは年に1, 2回とし、あとはその職員と住民が週1, 2回会うというようにしたそうです。当事者同士が合わないで、仲介者に任せるとするのは、トラブルが起きた時には、一般的に行われていることです。

その職員は、住民の人たちに建設への理解を訴え、説得するのではなく、まず住民の方たちに会って話を聞くことから始めたそうです。それもはじめのうちは玄関にさえ入れてもらえなかったそうですが、何度も訪問するうちに、（施設建設とは関係のない）話をしてくれるようになり、やがて家の中にあげてもらえるようになるなど心を開いてくれるようになったそうです。それでも焦って施設建設の話はしなかったそうです。何より住民の人たちとの信頼関係を作ることを第一に考え、そこから少しずつ理解をしてもらえるようになったそうです。

あふネットのグループホーム建設では、周辺住民からの反対の声は特にあがりませんでした。それは、住民の方たちの人柄もあるでしょう。また、30年以上前から「希望の家」が活動していて、日ごろの活動やイベントなどを通して、地域の人たちの理解が進んでいたおかげでしょう。また尾久西小学校に特別支援教室もあることも大きいでしょう。とても幸運だったといえます。

今後も、施設に閉じこもることなく、どんどん外に出て、障がいのある人のいいところもおかしなところも合わせて見ていただいて、根拠のない偏見や差別などが起きないように、後に続く人たちのために貢献できればと思います。

グループホーム3号館開設に向けて 介護スタッフ大募集!!

正社員 月給:22万~30万円以上

時給:1000円~1300円

1夜勤19,000円~(16:00~翌10:00)

社会保険完備 交通費(自転車を含む)支給

土日出勤、夜勤のできる人、大歓迎

身体介護、家事援助、外出支援、通院支援、送迎

障害児タイムケア（障害のある子どもたちのお世話と遊び相手）

グループホーム(早朝、日中、夜間、宿直勤務)

発行・編集：川口仁志